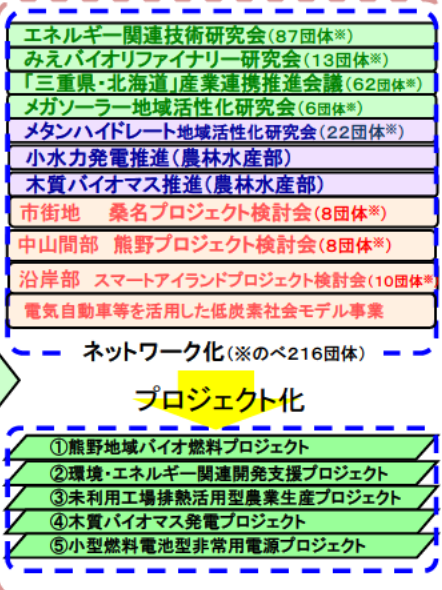
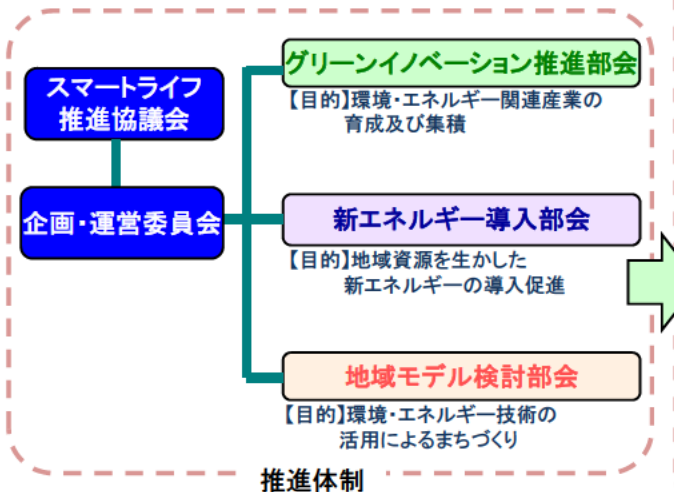


- 個人の幸福実感の向上に資するライフスタイルの実現を目指しつ、事業者にとってビジネスチャンスを生み出すための協議会を平成24年10月に設立。
- 協議会では、新たなビジネスモデルや社会モデルを発掘していくためのアイデアや知恵を集結させ、実際の地域フィールドでプロジェクト化を図る。

- 会長 知事
- 特別顧問 寺島実郎氏(一般財団法人日本総合研究所)
- 会員: 企業、大学、経済団体、市町等

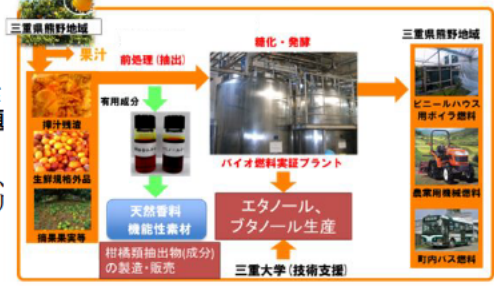


## 取組事例①

### 熊野地域バイオ燃料プロジェクト

～未利用柑橘類を活用したバイオ燃料生産技術開発～  
〔平成25年度新エネルギーベンチャー技術革新事業(NEDO)〕

高度部材・素材を強みとする四日市コンビナート企業などを中心とした「みえバイオリファイナリー研究会」を本年5月に設立し、環境・エネルギー、食糧問題などの社会的問題のパラダイム転換につながるような新たなビジネス創出への取組を開始しました。現在、国内外のバイオマス資源の賦存量やバイオリファイナリーに関する技術調査などの基礎調査を実施しています。



今後は調査結果などを踏まえ、バイオリファイナリーに関する各分野での注視すべき技術事項について整理し、三重県で取り組むべきプロジェクトテーマの検討を行うとともに、企業主体の研究開発プロジェクト化を推進していきます。

また、本年7月に、県内中小企業、三重大学が進める「未利用柑橘類を活用したバイオ燃料生産技術開発」がNEDOの「新エネルギーベンチャー技術革新事業」に採択されました。本事業により、熊野地域をフィールドとしたビジネスモデルの実現を目指して、技術検討及び市場調査を開始しています。本事業を地域と一体になって進めることにより、地域の課題解決と産業育成を図ります。

## 取組事例②

### 環境・エネルギー関連開発支援プロジェクト

平成25年度地域の技術シーズを活用した再エネ・省エネ対策フィージビリティ調査(環境省)

中小企業がいち早く環境・エネルギー関連分野へ進出できるよう、県工業研究所が中心となって「エネルギー関連技術研究会」を昨年7月に設立し、「太陽エネルギー」、「燃料電池」、「二次電池」、「省エネ・システム」の4つの分科会で、新たなビジネスにつながる技術開発などの検討を進める中で、4件のテーマ(創エネ:2、蓄エネ:1、省エネ:1)について、共同研究プロジェクトを始めています。

また、環境省の委託事業として本年7月に採択を受けた「地域の技術シーズを活用した再エネ・省エネ対策フィージビリティ調査(25・26年度事業)」などを活用して、低炭素社会の実現につながる商品開発の方向性の検討を進めるとともに、今後は調査結果を踏まえ、地域モデルへの展開も視野に入れながら、新たな再エネ・省エネに関する製品化に向けたビジネスモデルの提案を行っていきます。

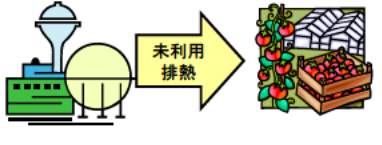


## 取組事例③

### 未利用工場排熱活用型農業生産プロジェクト

平成25年度農業成長産業化実証事業(経済産業省)

県内バイオ関連中小企業や農業者などが進める「未利用工場廃熱の農業生産システム(植物工場)への事業展開」が、本年7月に経済産業省の「農業成長産業化実証事業」に採択されました。本事業が円滑に進むよう支援するとともに、植物工場の新たな省エネ技術であるデシカント空調装置の導入試験や、情報通信技術を活用した植物工場の最適環境制御技術の検討など、省エネ技術による農工商連携などの取組も支援していきます。

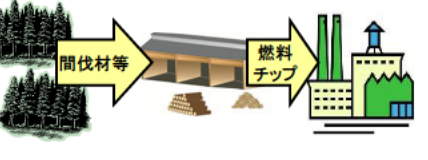


## 取組事例④

### 木質バイオマス発電プロジェクト

三重県多気町内において、大手企業が木質バイオマス発電事業(発電規模:6,000KW程度)を計画しており、平成28年度の運転開始に向けて準備を進めています。本事業が円滑に進むよう、多気町とも連携しながら、発電所建設に伴う諸条件等の環境整備について支援していきます。

事業場所: 多気町クリスタルタウン 工業ゾーン(多気郡多気町)  
 想定年間発電量: 約4.1百万kwh  
 (一般家庭11,300世帯分に相当)  
 燃料種別: 木質チップ  
 燃料使用量: 6万t/年程度  
 着工予定: 平成26年度



## 取組事例⑤

### 小型燃料電池型非常用電源プロジェクト

平成25年度課題設定型産業技術開発費助成事業(NEDO)

大手企業、ベンチャー企業、京都大学などがNEDOより本年5月に採択を受けた「固体水素燃料電池を用いた充電機能付き非常用電源の開発(平成25年度課題設定型産業技術開発費助成金)」について、大雨や津波など災害が懸念される熊野市(熊野プロジェクト検討会)、鳥羽市(スマートアイランドプロジェクト検討会)をフィールドに、小型燃料電池を活用した非常用電源確保などユーザーニーズ(災害時の緊急電源としての有用性、費用対効果、改善点等)の把握など製品開発に向けた実証試験を行います。

本事業が円滑に進むよう支援するとともに、関連する新たな製品開発に向け、県内ものづくり中小企業との連携も促進していきます。

サイズ(cm): 19 x 34 x 29 (230W, 7kg)

固体水素源型燃料電池